

☆ 子 ども 会 (学 習 会) だ よ り ☆

MY SKY 第27号 ☆ ☆

マイ スカイ

1996年1月21日火曜日発行(毎週火曜日定期発行)

発 行 者
板野中学校
学 習 会
編集・校対：吉田正士

いっさくねん
一昨年いっさくねんの1月17日、阪神・淡路大震災は起こりました。6400人もの死者を出し、
今もなお70000人の人々が仮設住宅かぜつで生活しています。仮設住宅といってもプレハブ
住宅です。厳しい暑さ寒さは、ことのほか身にしみることでしょう。

みなさんの中にも、あの朝、布団ふとんからとび起きた人もいることと思います。そしてテレ
ビの特別番組で生中継され続けた、あの地獄のような光景。次から次へと増え続けていく
死亡確認者の名前……。あの惨状さんじょうを、今生きている私たちは決して風化ふうかさせることなく、
後世こうせいに伝えていかねばならないと思います。

それと同時に、あのような天災が起こったとき、私たちはどのように生活を立て直せば
いいのかについても考えておかなければならないと思います。ある国では、大きな天災が
起こったとき、それを国が認めれば、被害の程度に合わせすぐに国が生活の保障としてお
金を出すのだそうです。そして国民も納税者のうぜいしやとして、そのことを当然の権利だと捉えてい
るといいます。国は、国民が自立して生活できるように支援する義務ぎむがあるのだというの
です。

今平穏へいおんに暮らしている私たちも、いつ災難さいなんに巻き込まれるかわかりません。その時のた
めにも、本当に人権が尊重されるような保障システムを、政治や市民運動などを通じて国
に働きかけ、作っておかなければならないのではないのでしょうか。



◎松本治一郎しょうがい ぼつごさんの生涯・没後30周年におもう(解放新聞より：続編)

前号の続きになりますが、松本治一郎氏についての記事です。

松本氏の話の中で私が特に気に入っているお話として、「カニの横ばいよこばい」拒否きひ、があり
ます。「なるほど!」と唸うならせてくれるお話です。実は私たちの身の周りには、これほど
ではないにしろ、おかしいことおかしいことや無駄なことがたくさん潜ひそんでいます。潜んでいると言
うよりも、私たちが「当たり前」のこととみなして、気づいていないだけなのかもしれませ

ん。私たちは、彼の生き様からいろんなことを学べるはずです。しっかり自分の周りを、そして自分自身を見つめてみましょう。

天皇もぼくも人間

松本治一郎さんの戦後を語るとき、やはり参議院副議長として「カニの横ばい」拒否の事件が一番はじめにくる。

1948年1月21日、国会の便殿で昭和天皇は開会式にのぞむためひと休みする。衆議院・参議院の正副議長が、戦前と同じように“拝謁を仰せつけられる”儀式がはじまった。顔だけ正面へじっと向けたまま、カニが横へ横へはうようにすすむ、そうして最敬礼となる。4人目、松本さんの番がまわってきた。「神さまじゃないんだ。人間松本が、人間天皇をおがむカニの真似は、がまんならん」と拒否したのだ。「ぼくはやらぬよ」。

松本さんが、身ぶりまでして、私に「ばかげたことよ」とカニの横ばいをくわしく説明してくださったことを鮮烈におぼえている。

「議事堂の正面玄関で出迎えたとき、ぼくは、ご苦労さまですとちゃんとあいさつしている。天皇も、いろいろご苦労をかけますと答えている。それで十分ではないか」

吉田茂首相は天皇拝謁の戦前型「臣茂」の君主主義者だから「貴族あるところ、賤族あり」の徹底した民主主義者、松本さんとは相容れない。さぞカチンときたことだろう。

3回にわたって、大政翼賛会の推薦議員だったこと、大和報国運動との関係の有無など「追放」調査があり、すでにパスしていたにもかかわらず、吉田首相の代になると(芦田均と交代)、1949年1月、追放が強行された。部落解放全国委員会にとっては松本さんの追放解除までの2年8カ月は、じつに大きな痛手であった。

必ず殺すと脅迫が

「逆賊のお前を必ず殺す」「月に15日の闇夜があるぞ……」という脅迫状の消印に「岡山県倉敷」とあった。松本さんは3月はじめ倉敷へ。「カニの横ばい真相発表会」の看板をかかげ2000人の聴衆の前に立った。

「月に15日どころか、常闇の中に命をかけて闘ったぼくの生涯に、片腹いたいどころか両腹がいたいといおう。思想は自由だ。反対の人は遠慮なくこの演壇にあがっておいでなさい」

すでに、麻布市兵衛町の、いま六本木の松本記念館になっている近くで、暴漢に石

を投げられ肩にけがをしていた松本さんだった。書生^{しよせい}として、ずっと付き添っていた人に聞いたのだが、松本さんは文字どおり「決死^{かくご}の覚悟^{かくご}」で乗り込んでいったという。よく言われた「最後の血の一滴まで」が、けっして誇張^{こちやう}でないのだ、と私は思っている。

もう一つの戦後は「世界の水平運動」である。

1948年、松本さんの提唱^{ていしょう}で「アジア民族親善協会」がつくられる。フランス軍が降伏^{こうふく}をし、ジュネーブ協定にもとづくベトナム独立が約束されたとき、その祝賀会^{そっせん}を率先^{そっせん}してよびかけている。

1954年10月、念願^{しゅうおんらい}の中国入りを妨害^{しやざい}をはねのけて実現した松本さんは、北京で周恩来・首相にまず謝罪^{しやざい}している。

「日本軍国主義^{むぼう}の無謀な戦争で、もっとも仲良くせねばならないあなたの国にたいへんなご迷惑^{わいせつ}をかけました。その罪を心からおわびします」

11月、ストックホルムでひらかれた世界平和評議会で強く核廃絶^{はいぜつ}を訴えている。

1955年4月、インドのニューデリーでアジア諸国会議がひらかれ「平和五原則」「平等互惠」の確認に、松本さんは大きな役割をはたした。部落差別^{はうぶつ}のレポートを朝田善之助^{あさの ぜんすけ}さんに用意^{ようい}させて全参加者に英文で配布したというのも、画期的^{かくきてき}なことだったろう。

パリでの黒人歌手ジョセフィン・ベーカーさんの“孤児の家”の支援、インドの被差別カーストへの訪問、オーストラリアの先住民差別への眼差^{まなざ}し……。

没後30周年にして、その後の反差別国際連帯運動や、「あらゆる形態の人種差別撤廃^{てつぱい}条約」への加入、「人権教育の国連10年」へとつながってゆく、松本さんの足跡^{そくせき}の大きさ、読みの深さに、思いいたる。

「ビールでも一杯……」といったら「いや、ごかい(五戒)ですよ」と微笑された。

ネクタイはしない、虚飾^{きょしよく}だから。アルコール類は口にしない、タバコはのまない、バクチはしない。「官憲^{かんけん}の弾圧^{だんあつ}、誘惑にまけてはならぬ、そのため欲をおさえ、ふだんから自らをきたえようと誓ったら、習い性となったまでです」。すごいことだ。ついに妻はめとらなかった。嗣子^{おい}の故英一さんは甥である。

一人でも守ると

「何かモットーを……」と頼んだら、私の取材用ノートにあの「不可侵^{ふかしん} 不可被侵^{ふかひしん}」を達筆^{たつひつ}で書かれた。大日本帝国憲法三条の「天皇ハ神聖ニシテ侵スベカラズ」を逆手^{さかて}

にとっての、激越ともとれる、松本さんらしい人権宣言である。日中全面戦争下、大阪・中之島公会堂で、国策協力・戦争完遂を打ちだした15回大会で壇上にのぼった松本さんは「人間と人間が殺し合うような戦争には、絶対に反対であります」と議長きづちの木槌でガンと演壇をたたかれたと、この2月に死去した寺本知さんは語っておられた。アジア太平洋戦争に突入し、言論出版集げんろんしゅつぱんしゅうかいけつしやとうりん会結社等臨時取締法によって、全国水平社の解散を当局が求めてきたとき、松本さんは「運動をしなくてもよい世の中というものを、あなた方は保障できるのか。荊冠旗けいかんきはおれ一人になっても守る」と生命を賭して啖呵たんかを切り、金庫の中に、荊冠旗をしまいこむのだ。

1965年12月松本さんはNHKテレビで私たちによびかけた。「同対審答申の完全実施は、部落大衆のみならず、国民全体のしあわせに通じる」と。翌66年11月22日に死去。79歳と5カ月。没後の歳月と特別措置法の28年とは、ほぼ重なり合うのである。

元朝日新聞記者・大阪人権博物館長 平野一郎



◇ これからの日程 ◇ ◇ ◇

先日、町内外の先生方合計36人で、部落問題を早期そうきに解決するための大阪研修に行ってきました。板中からは、私と阿部先生と柿原先生の3人が参加できました。本当にいろんな事を知り、考えることができました。来週はそこら辺のことを記したものを読んでもらおうと思います。お楽しみに！！



1月28日(火) 『MY SKY 第28号』発行日

2月1日(土) シャンテコンサート(18:00～：藍住町民会館)

4日(火) 『MY SKY 第29号』発行日



◎「シャンテ」のチケット好評につき残り6枚！！お早く！

と き：2月1日(土) 5：30開場 6：00開演

と ころ：藍住町民会館

チケット：前売券1500円（私，吉成まで）

21♡ チャリティー シャンテ愛のコンサート



手話でロックを聞かせて

日時／平成9年2月1日（土）18時開演（17時30分開場）

場所／藍住町町民会館

出演／シャンテ

入場料／前売 1,500 円（当日 2,000 円）

主催／夢ふうせん

後援／藍住町教育委員会・藍住町社会福祉協議会

徳島新聞社・四国放送・NHK 徳島放送局